

仙台・荒井に私設図書館「さまざまな人、出会える場に」

2022年7月18日 16:00

仙台市若林区荒井3丁目に、小説や漫画などを並べる私設図書館「荒井まちのわ図書館」が開館した。本棚の一部には本好きの人たちがお薦めの本を貸し出す「一箱本棚オーナー」を導入。館長の福井大輔さん（38）は「さまざまな立場の人が出会える場となってほしい」と話す。

個人の小説や図鑑貸し出し「一箱本棚オーナー」導入



小説や漫画などを並べる荒井まちのわ図書館。一箱本棚オーナーも導入した

まちのわ図書館は6月1日、地元のNPO法人「まちあす」代表理事の福井さんらが空き店舗にオープンした。88平方メートルの館内の壁面に高さ約1・8メートル、幅約10メートルの本棚を備え、福井さんや法人職員らが提供した小説や漫画の本約1000冊を並べる。

うち約150冊は一箱本棚オーナーの本だ。一箱本棚オーナーは月2200円払って区画を借りれば、貸し出し用の本を自由に並べられる仕組み。1区画の大きさは縦44センチ、横42センチ、奥行き30センチで、80区画用意する。既に25人がオーナーを申し出ていて、10人が小説、図鑑、実用書などを並べている。

介護施設や保育園を運営する福井さんは、日頃から世代や立場を超えてつながれる居場所が必要だと考えていた。2018年には地区に多世代複合施設「アンダンチ」をオープン。高齢者や地域住民らが交流できるイベントなども開いた。

図書館は「本も人も多様性がある。たくさん本がある場所は、あらゆる人にとって居心地が良い」という福井さんの発想で生まれた。施設整備などの資金の一部はインターネットで寄付を募るクラウドファンディング（CF）を活用した。

福井さんは「高齢者や障害者、子育て世代、子どもらが共生できる社会を構築するためには、中間支援的な取り組みが必要だ。誰もがふらっと立ち寄り、生きがいが持てる図書館にしたい」と話している。

入館無料。開館時間は図書館のインスタグラムで告知している。